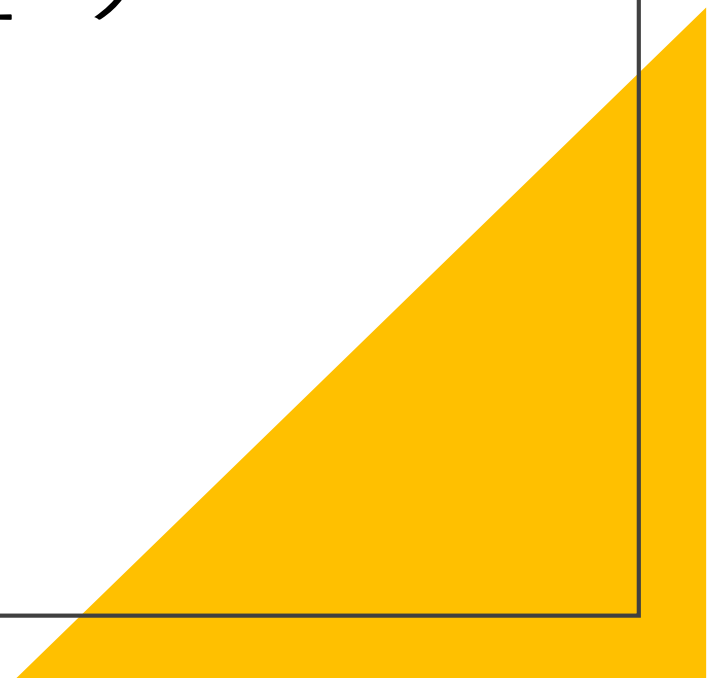


温暖化対策等に関する 千葉商科大学の取組み

2023年10月14日

千葉商科大学 人間社会学部

伊藤康



千葉商科大学について

- 1928年創立
- 学生数 約6,500人
5学部（商経学部、政策情報学部、サービス創造学部、人間社会学部、国際教養学部）、大学院、研究所等
→ 「**社会科学の総合大学**」
- 教員 554人（非常勤含む）、職員165人
- 市川キャンパス敷地面積107,900 m²
- 建学の精神
創設者の遠藤隆吉は、巣鴨高等商業学校設立当時の商業道德の頹廃を嘆き、**実業家として世に立つ者に商業道德**を身につけさせ、武士的精神を注入することが急務であると指摘した。
- 最近では**SDGs**に関する研究・教育を重視



市川キャンパスマップ

「自然エネルギー100%大学」の理念

- 再エネ100%による「地域分散型エネルギー社会」をつくる。
- その形成には、エネルギーの責任ある消費と再エネによる責任ある創出が必要となる。
SDG12
“Ensure sustainable consumption and production patterns”
「つくる責任つかう責任」
- まずは千葉商科大学で自ら「千葉商科大学で使用するエネルギー量を大学所有の太陽光発電所などでの発電量以内に抑える」を実践。
→波及に期待



発想の背景

千葉商大野田キャンパス

(市川キャンパスから約25km北)

敷地面積:約46,781m²(約4.68ha)

※東京ドーム1個分

パネル数:11,642枚

パネル容量:約2.88MW

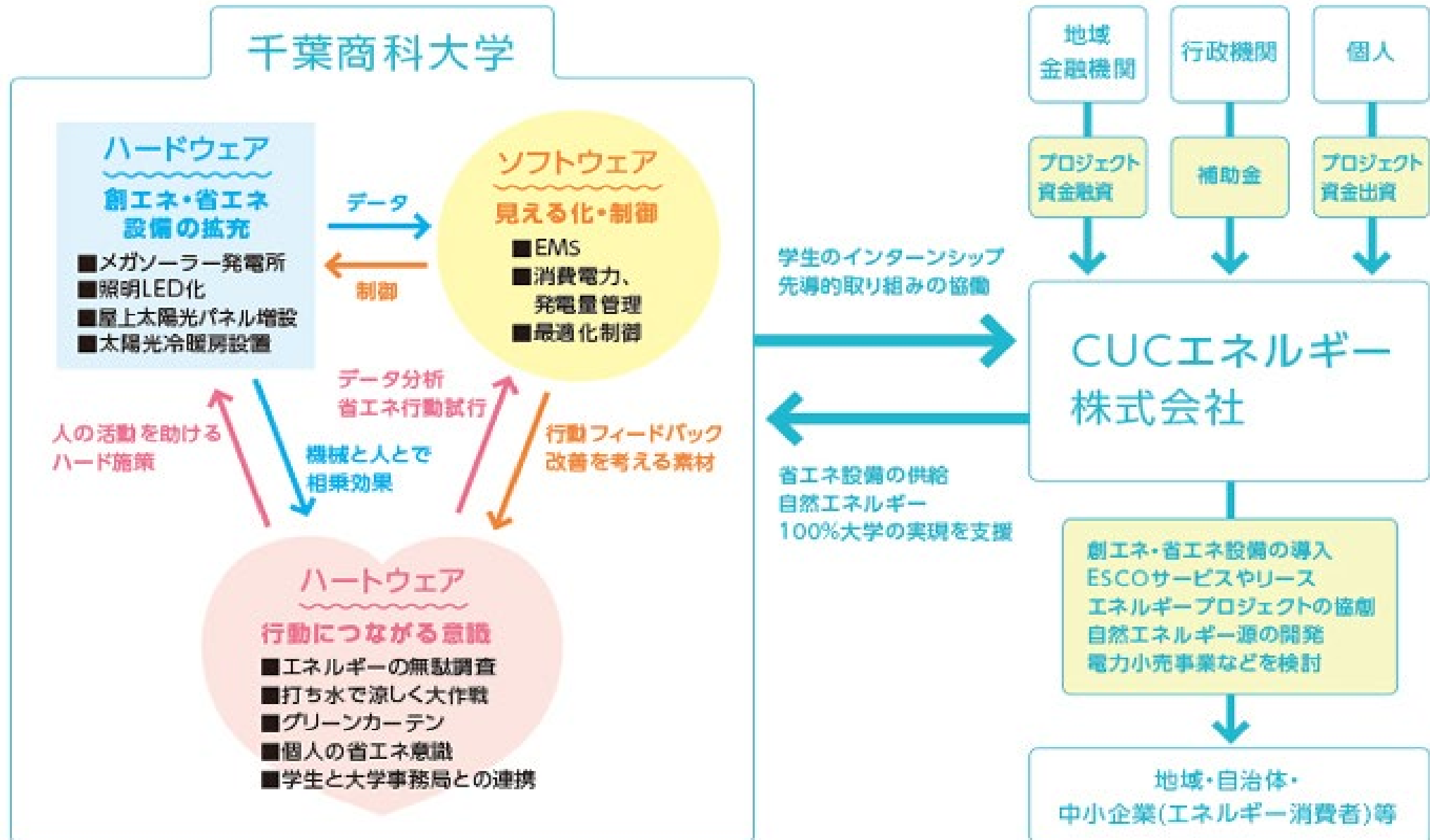
総工費：約7億円

2014年より稼働（売電）

出所：千葉商科大学HPより



全体構想イメージ



学生の役割と教育効果

学生団体SONE（Student Organization for Natural Energy）の学生が教職員・学生に対しての啓発活動を担っている。



打ち水で涼しく大作戦！

7月に開催

打ち水前後の温度調査、学生の意識調査アンケートを実施した。



再エネ イルミネーション

12月に開催

太陽光発電した電気を蓄電し、夜に廃棄ペットボトルを使用したツリーを作って点灯した。活動発信、アンケート調査を実施した。



仕掛学

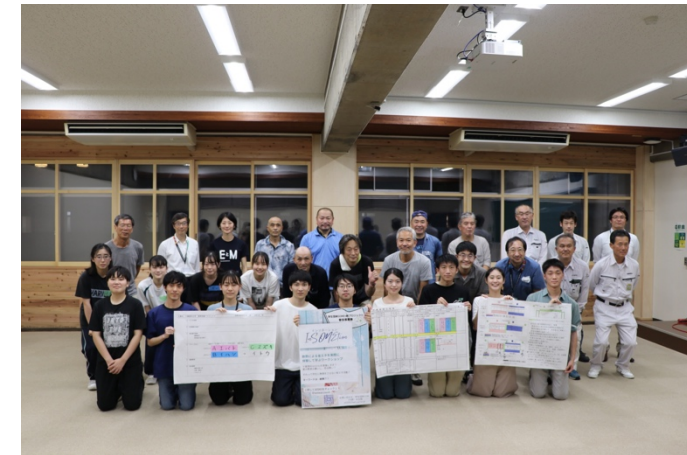
2020年から学内で実施

教室の退出時に消灯することを促進するシールを貼った。トイレの蓋にもシールを貼って閉めることをした。

資料：手嶋進氏（千葉商科大学基盤教育機構教授）より提供

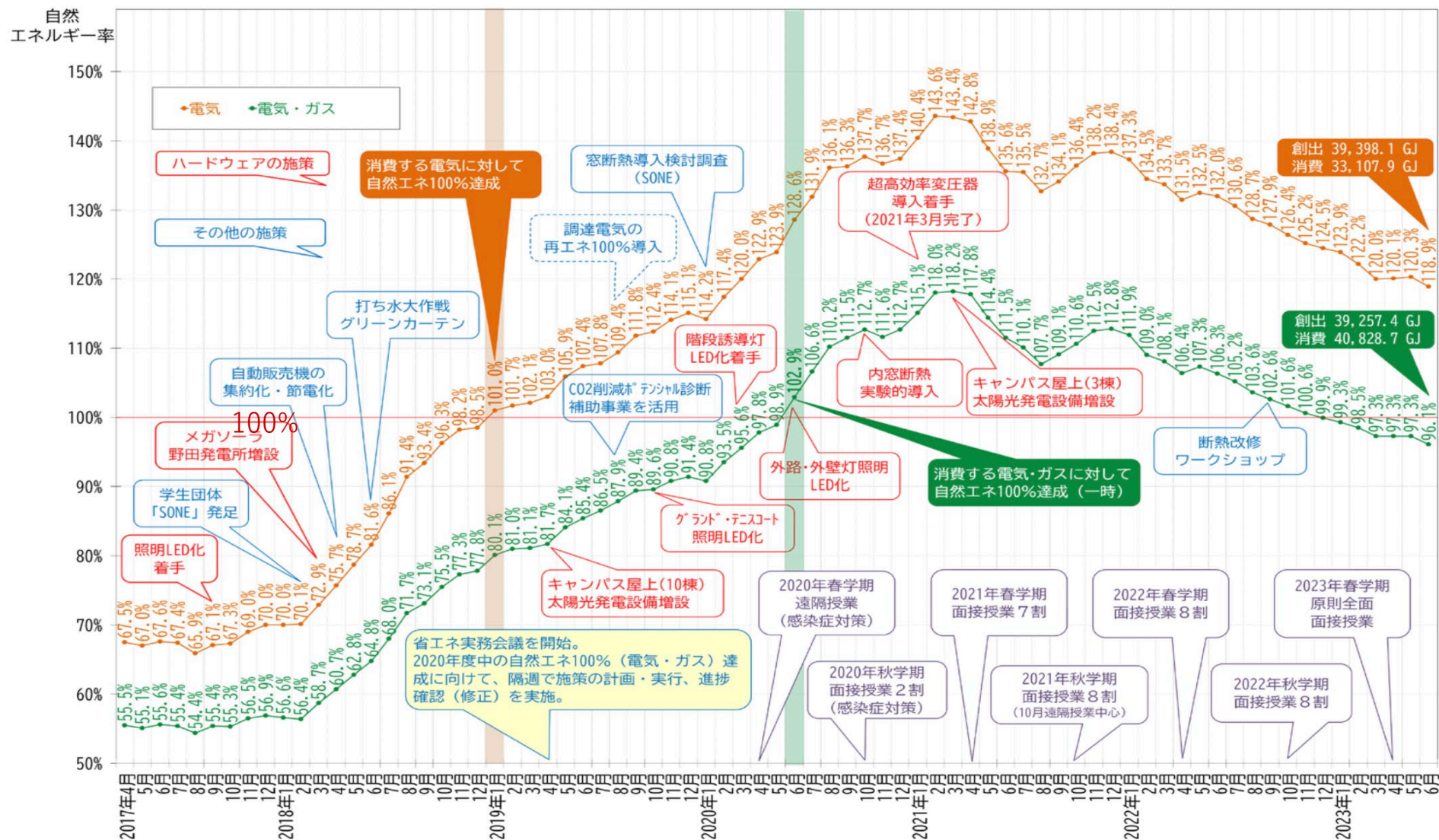
学生の役割と教育効果

学生団体SONEが主催し、本学および東邦大学、都留文科大学らの学生が壁面の断熱や内窓の作成・設置を行なった。



資料：手島進氏（千葉商科大学基盤教育機構教授）より提供

自然エネルギー達成率推移 (2017年4月-2023年6月)



資料：手島進氏 (千葉商科大学基盤教育機構教授) より提供

大学にできること（特に社会科学系）

研究教育機関として

- 世の中の仕組みが環境破壊をもたらすメカニズムを解明

→ どのような対策・政策が必要か？

- 環境対策の必要性等を理解してもらうための教育
（実際に事業を行っていることによる説得力）

※ 「社会科学の大学」でも、できることは沢山有る！

ある程度の規模を持つ組織であるからできること

- 「自然エネルギー100%大学」のような行動

→ 波及効果

教育で（一教員として）心がけていること

- 環境問題に関して、学生に感想を書いてもらおうと「少しでも自分にできることを行って貢献したい」と書かれることが多い。
- もちろん、それは非常に重要だが、「消費者として」できることに留まっていることがほとんど。

例 電気を小まめに消す等

- 「多くの人に環境に良い行動をとってもらうために、自分にできることは何か」 = 「環境に良い行動をとりやすくなる仕組み・制度を作るためにできることは何か」ということ「も」考えてもらいたい。